

外需中心に減速する米国景気

ポイント① 企業景況感の悪化

10月初めに発表された米国の経済指標は、米国経済が輸出を中心に減速していることを示すものとなりました。

9月の米ISM製造業景況感指数は拡大/縮小の分岐点である50を割った8月からさらに下落し、2009年7月以来続いている現在の景気拡大局面の中で最も低い水準となりました。特に、図1が示すように新規輸出受注指数の下落が大きく、外需の悪化が目立ちます。非製造業景況感指数も9月には前月から下落し、製造業景気の鈍化が非製造業にも波及しつつあるようにも見受けられます。

ポイント② 時間当たり賃金が鈍化

9月の非農業部門雇用者数は、前月比13.6万人増と、8月の16.8万人増（改定後）を下回りました。全体的には急激に落ち込んでいるわけではありませんが、製造業は9月には2,000人減となり、企業景況感の悪化が影響しているようです。

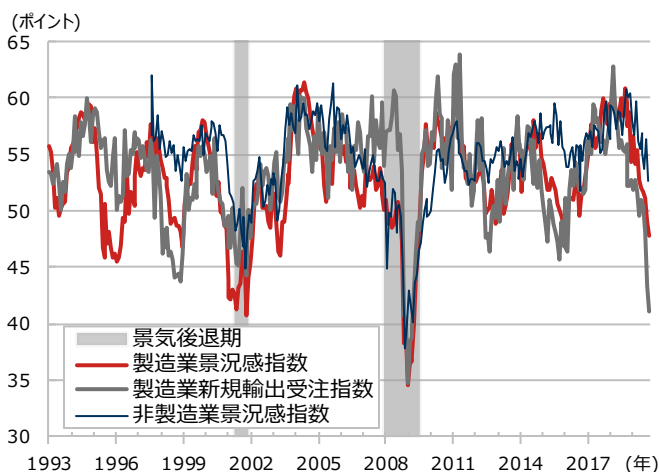
また、民間非農業部門の時間当たり賃金は前年同月比+2.9%と、昨年7月以来の3%割れとなりました。賃金の鈍化により、家計所得の鈍化を通じて、個人消費が抑制される可能性があります。

ポイント③ 高まる追加利下げの公算

9月17、18日開催のFOMC（米連邦公開市場委員会）では0.25%の政策金利引き下げが行なわれましたが、金融政策の先行きに関してはFOMC参加者の意見が割れていました。10月29、30日の次回FOMCでさらなる利下げに踏み切るかどうか注目されますが、上記の経済指標の動向などから見ると、利下げの公算が高まったと判断されます。

図1：米ISM(サプライマネジメント協会)景況感指数

期間：1993年1月～2019年9月、月次

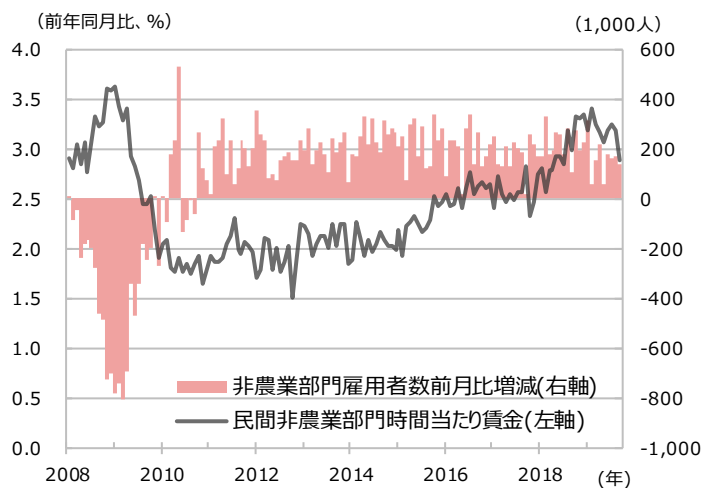


(注) 非製造業指数は1997年7月から

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：米非農業部門雇用者数と時間当たり賃金

期間：2008年1月～2019年9月、月次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要 イベント

10月10日	米中閣僚級貿易協議開始 (予定)
10月16日	米小売売上高(9月)

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。